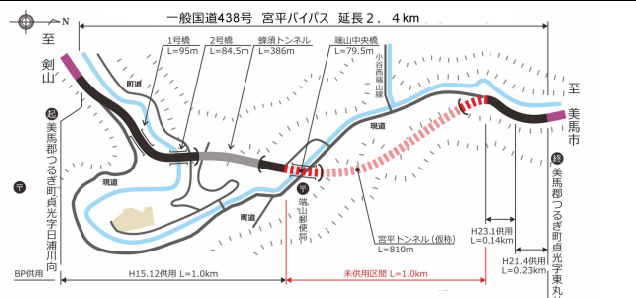


再評価結果（令和6年度事業継続箇所）

担当課：道路整備課

担当課長名：鈴江 和好

事業名	一般国道438号 宮平バイパス			事業区分	一般国道	事業主体	徳島県
起終点	自：徳島県 美馬郡 つるぎ町 貞光字 日浦川 向 至：徳島県 美馬郡 つるぎ町 貞光字 東丸井					延長	2.4km
事業概要							
当路線は、徳島県徳島市からつるぎ町を経由し香川県坂出市に至る幹線道路で、第2次緊急輸送道路に指定されており、また、「にし阿波～剣山・吉野川観光圏」の推進に寄与する重要な路線である。 宮平バイパスは、「二層うだつの町並み」や「剣山」などの観光施設間の連携強化を図るとともに、幅員狭小や線形不良などの隘路区間を解消し、安全で円滑な交通の確保を目的に整備する2車線道路である。							
H7年度事業化		-		H8年度用地着手		H9年度工事着工	
全体事業費	93億円	事業進捗率	57%	供用済延長	1.4km		
計画交通量	1,400台/日						
費用対効果 分析結果	B/C	総費用		総便益		基準年	
	事業全体 1.1 残事業 0.8	(残事業)/(事業全体) 32.0/148.8億円 事業費:31.6/147.1億円 維持管理費: 0.4/ 1.7億円		(残事業)/(事業全体) 26.0/163.3億円 走行時間短縮便益: 19.1/134.8億円 走行経費減少便益: 0.7/ 9.7億円 交通事故減少便益: 0.03/ 0.8億円 環境負荷低減便益: 0.05/ 0.4億円 救急救命率向上便益: 6.1/ 17.6億円		令和6年度	
感度分析 の結果	【事業全体】交通量: B/C=0.99～1.21 (交通量±10%) 事業費: B/C=1.07～1.12 (事業費±10%) 事業期間: B/C=1.09～1.11 (事業期間±1年) 【残事業】交通量: B/C=0.73～0.89 (交通量±10%) 事業費: B/C=0.74～0.90 (事業費±10%) 事業期間: B/C=0.80～0.83 (事業期間±1年)						
事業の効果等							
■ 国土・地域ネットワークの構築: 大型車すれ違い困難区間3.2kmの解消。 ■ 災害への備え: 緊急輸送道路における対策工事2.4kmの完成、落石危険箇所6箇所の回避。 道路途絶に伴う住民の孤立を回避 (つるぎ町民の約1割) ■ 個性ある地域の形成: 剣山、鳴滝等の観光地へのアクセス向上。							
関係する地方公共団体等の意見							
■ 沿線市町村で構成する国道438号整備促進期成同盟会から早期整備を求める要望を受けている。 ■ 地元町長から宮平トンネルの早期完成を求める要望を受けている (令和6年6月)。							
前回再評価時より今回再評価実施までの周辺環境変化等							
■ 周辺環境の変化は特になし。 ■ 令和6年1月に発生した能登半島地震において家屋倒壊による道路の途絶が発生し、救助・救援や早期復旧・復興の妨げとなった。 → 当工区においても同事象の発生の恐れがあり、発災時における確実な通行確保の重要性について再認識。							
事業の進捗状況、残事業の内容等							
■ これまでの供用区間は全延長2.4kmのうち約1.4km。 ■ 残事業はトンネルと取り合い部を含むバイパス部の約1.0km。							
事業の進捗が順調でない理由、今後の事業の見通し等							
■ 現道部で落石事故が発生したことを受け、通行車両の安全を早期に確保するため、落石対策工事を優先して行ったこと、また、トンネル掘削土の搬出ルート確保について関係者との調整に時間を要した結果、遅れが生じている。							
施工の構造や工法の変更等							
■ 町と連携し、近隣での残土処分を計画し、コスト縮減を図っている。 ■ トンネル断面の見直しによりコスト縮減を図っている。							
対応方針	事業継続						
対応方針の決定理由	■ 以上の状況を勘案すれば、当初から事業の必要性、重要性は変わらないと考えている。						
事業概要図	 						

注1. 総費用、総便益とその内訳は各年次の価格を割引率を用いて基準年の価値に換算し累計したもの。

注2. 総費用及び総便益の値は、表示桁数の関係で内訳の合計と一致しないことがある。